

令和4年度「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」実施事業の
効果検証及び事後評価について

みやぎき就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム会議において効果検証及び事後評価を行った。

1 【宮崎県】宮崎県就職氷河期世代活躍応援事業の成果についての意見

(1) 地域プラットフォームの運営

- ・ 昨年に続き、県央・県北・県西の圏域ごとの会議が年2回実施されたことは評価できる。同会議は短時間ではあるが、地域におけるひきこもり支援のあり方について、事例検討ができ、宮崎大学の境教授や楠の会など専門家や当事者からのアドバイスが直接受けられるところに一定の役割を果たしていたものと思われる。今後、市町村PFにおいて同様の機能が維持、提供できるかが課題である。

(2) SNSを活用したワンストップ相談体制の整備

- ・ LINEは今風で素晴らしい。関心した。
- ・ 友達登録者数は、95名から150名へ55名増、相談件数は、令和3年度139件に対し、276件と大幅に伸びており、取組が浸透してきていることが窺える。周知についてはプラットフォームでの横の繋がりを活用する必要がある。

(3) 就職氷河期世代の活躍応援に向けた機運の醸成

- ・ 参加者数は、令和3年度91名に対し、134名。当事者と支援者のパネルディスカッションなど内容も充実していた。周知期間が短く、内容が直前まで分からなかったことは課題である。

(4) マッチング機会の提供

- ・ 県北・県西においてもマッチング会を実施できたことはよかった。また前年度の反省をふまえ、取り組まれたことが参加者増につながった。今後、みやぎきPFでの連携をより密にし、効果的な実施を図っていただきたい。

(5) ひきこもりサポーター養成研修の実施

- ・ ひきこもり支援においては、よりこの問題に特化した息の長い取組が必要なことは周知のとおりであり、支援者側の理解が深まることが地域での取組を進めていくためには不可欠である。現場では件数も多くなく、どのように対応していいかわからないといった声があるなか、このような取組が継続して実施されることを今後期待したい。

2 【宮崎県】 ひきこもり実態把握・情報発信事業の成果についての意見

- ・ ひきこもり実態調査において、日常生活の心配事や悩み事を「誰にも相談しない」との回答が 32.2%あったことに驚いた。このような実態調査の結果を初めて目にし、問題の一端を知る機会となった。
- ・ PFにおいても望まれる実態調査が定期的に行われることは大変意義深い。この調査結果をもとに、県内のひきこもりと呼ばれる方々への支援がより良いものとなることを期待したい。

3 【延岡市】 のべおか就職氷河期世代支援事業の成果についての意見

- ・ 延岡市の広報誌など、地元においても知らないことも多く、支援の情報をいかに必要としている方に届けられるかが今後、大切だと思う。
- ・ 10社の目標に対し、3年連続で16社の企業情報を掲載されていることは評価できる。電子書籍ということであり、閲覧数はどのくらいだったか気になるところ。実際に企業に就職した人がいたのかにも注目したい。

4 【宮崎市】 地域産業人材育成支援事業の成果についての意見

- ・ セミナー参加者が目標 10名に対し、4名。周知・広報に課題があったのではと考えるが、担当者からあったように、1回きりの取組は難しい部分がある。みやざき PF を中心とした積極的な情報共有が求められる。

5 【宮崎市】 女性の活躍推進事業の成果についての意見

- ・ セミナー参加者が目標 27名に対し、8名と課題が感じられる。上記同様に周知等に課題がある。

6 各事業への評価総括

(1) 宮崎県実施事業

KPI は達成しており評価できる。ただし、一部周知に課題があり、改善が必要。

- (2) 延岡市実施事業
KPI を達成しており評価できる。今後はその活用に注目したい。
- (3) 宮崎市実施事業
KPI を達していないものの、一定の成果があった点は評価する。周知に課題があり、改善が必要。
- (4) 事業全般・その他
- KPI の達成状況から概ね目標を達成しているものと見られる。
 - 積極的に受け入れる企業数は目標値を達成しており、評価できるが、どこも人材確保が最優先である。各企業において工夫はしているが、採用に結びつかない現状にある。
 - 採用全体が変わっている中、新たな取り組みを考えていく必要がある。
 - やはり周知が難しいと感じる。SNS を活用した周知は必須。
 - 中小企業の6割が求人に問題意識がある。昨年度の採用については、4割程度の達成状況に留まる。中小企業は人材不足が切迫している。
 - ミスマッチや原因がどこにあるのか、周知も課題である。
 - KPI の達成は大変素晴らしい成果である一方、個人的にはKPI 自体に疑問もある。
 - 求職者に対する職業体験をしている中で、年齢層は年々上がっており、氷河期世代も割合として増えている。どれくらい的人数が社会に出たのか、就職後の定着がどうかという数字もほしい。
 - 宮崎全体の状況がどうなっているのかよく分からない。
 - ここ数年、特にコロナ禍になってからはイベント等に人が集まらない状況。
 - 問題を抱えている方は、人とのコミュニケーションが取りづらい上に、コロナ禍を経て、表に出たの動きがなおさら減っている。20~30代はスマホを使用することが当たり前の世代であり、オンラインで済ましたいという対象者にどのようにして情報を届けるのが課題。
 - 求職者にとって仕事がないというのは、やりたい仕事がないということで、企業にとっての人が足りないというのは、会社の条件できてくれる人がいないということ。これは、セミナーやマッチング会だけでは解消しない問題であるため、求人条件の見直し等の検討も必要である。